

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名は、ほとんどの児童が読んだり、書いたりすることができるが、とめ、はね、はらいの意識ができていない児童がいる。 いろいろな読み方で、音読に取り組んでいる。叙述に即した読みにもつながっている。 読書が好きな児童が多い。読み聞かせを集中して聞くことができる。 三文程度の基本形に即した文は書くことができるが、助詞、促音、長音の使い方が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートやひらがなプリントなどを使って、個別指導を行う。とめ、はね、はらいを重点化した課題を提示する。 音読の宿題を、毎日出す。一人、ペア、グループ、全体など読み方を変えたり、動作化・劇化などを工夫したりして、音読の楽しさを感じられるようにする。話す・聞くスキルを活用し、声に出して学習できるようにする。 読書の時間を確保する。児童が興味を抱くような本を紹介したり、読み聞かせを積極的に取り入れたりする。 基本形（いつ、どこで、だれと、何をした、どうだったか）を使い、助詞・促音・長音の使い方を繰り返し練習する。2学期以降は、日記を書いたり、他教科でも感じたことや気付いたことなどを書く活動を多く取り入れたりする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 10をもとに、40までの数の数え方、読み方はおおむねできている。しかし、数を2や5のまとまりで捉えることが難しい児童が多い。 減法の計算はおおむね正しく計算できるが、ブロックや指を計算の補助としている児童が多い。 文章問題は、読み取りができず立式できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の構成を意識して、大きい数の分解や小さい数の合成などの作業を授業の中に取り入れる。また、日頃から、ものの数を数えるときに、2ずつまとめて数えたり5のまとまりを作って数えたりする活動を取り入れ生活の中でも数に慣れさせていく。 ブロックを用いて数を操作する活動や計算カードの練習を多く取り入れる。反復練習をすることで定着を図る。 例題を通して、文章の中で着目する言葉を指導する。また、それらの言葉を使って問題作成に取り組ませ、立式の決め手となる言葉の理解を深める。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 一人一鉢で継続的にアサガオの世話をし、愛情をもって育てた。動物に関しては、触れあう機会が少なかった。 2年生と学校探検をしたり、1年生だけで質問をしたりして学校の様子を知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学童農園の野菜、アサガオなどの植物やウサギなどの動物を実際に観察したり、世話をしたりする中で、動植物が生命をもっていることや成長していることに気付かせていく。 2年生と秋の公園へ一緒に行き交流活動をする。近隣の幼稚園へ行き、幼児と交流する機会を設けて、自分と対象との関わりを深め、気付きの質を高める。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて歌ったり、曲想を感じ取って歌ったりすることができる。 身体でリズムをとったり表現したりしながら楽しく曲を聴いている。 範奏を聴いたり楽譜を見たりして、簡単な曲を鍵盤ハーモニカで演奏することができる児童は多いが、正しい指使いやタンギングが十分でない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの歌声や伴奏をよく聴いて声をそろえて歌ったり、きれいな声で歌ったりするように指導する。 いろいろな演奏形態の曲や楽器の音色を聴かせ、様子を思い浮かべて聴いたり、曲の気分を感じたりできるようにする。 音階を歌いながら手拍子するとともに、ペアで鍵盤ハーモニカの演奏を聞き合っ指使いを確認したり、少人数で指使いを確認したりしながら、技能面を高めていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 図工の活動に意欲的に取り組む児童が多い。 自分の思い通りに表現したり、発想を広げて表現したりすることに戸惑う児童もいる。造形活動を取り入れ、体全体を使って感じたり、いろいろな素材に触れたりする機会を設定する必要がある。 はさみ、のり、クレパス、絵の具等の用具の使い方を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> スムーズに表現活動に入れるよう実演をして見せたり、表現が固定されないよう参考作品の見せ方に配慮したりする。また、児童が興味をもつ題材を選んだり、のびのびと活動する場を設定したりする。 鑑賞の場を設けて、互いの作品の良いところに気付いたり、自分の作品を工夫しようとしたりする意欲も育てるようにする。 掛け図の提示や実演を通して段階を追った用具の使い方を指導する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に意欲的に取り組む児童が多い。 鉄棒や固定遊具を使った運動が苦手な児童がいる。 できる、できないの個人差が大きい。 用具（ボール）を操作する運動が苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 既知の運動には意欲的なので、様々な運動を紹介し運動経験を増やす。 帯で固定遊具に触れる活動を取り入れた授業計画を立てる。 ボールに触れる時間を確保する。ボールを使った遊びを中心に、ボールの操作に慣れるようにする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値について理解はできるが、日常生活に生かされていない。 拡大した挿絵や動作化を授業に取り入れることで、自分の気持ちを表現できるようになってきた。自分の気持ちを表現できない児童は、友達の意見を参考にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを掲示したり、ワークシートをファイルにまとめたりして、振り返りができるようにする。 自分の考えをワークシートに書かせたり、話し合いや感想から学びあったりする活動を設ける。

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を構成して話すことが難しい児童が複数見られる。 ほとんどの児童がすらすら音読できる。音読を繰り返すことで、話の内容はよく理解できている。 複数の文章を事柄の順序にそって、1つにまとめることは難しい。 漢字は7割の児童が習った漢字を書いたり読んだりすることができる。 書字では、おれ、はらいなど、丁寧さに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 話形を示し、パターン化して話す練習を繰り返す。 引き続き、音読の宿題を毎日出していく。 大事な言葉や文にサイドラインを引いたり、色分けしたりして、視覚的に理解を促す。はじめ、中、終わりの構成に気を付けてまとめるようにし、書き方に慣れる。 誤りはすぐに訂正し、繰り返し練習する。 漢字学習や書写の時間に、注意すべき点をおさえる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算については、10の構成が十分に身に付いていない児童がいるため、間違えたり、解答に時間がかかったりする。 ものさしを使って正しく測ったり、決められた長さを書いたりすることが苦手な児童がいる。 もののかさでは、dLやmLなどの単位の理解が十分でない児童がいる。 問題解決型の学習を行い、自力解決しようとする意欲を高めていく必要がある。 ペア学習や全体での検討など話し合いの場が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や授業でフラッシュカードや東京ベーシックドリルを使って復習する。 正確に使えるようになるまで繰り返し使って覚えるようにする。 操作活動を多く取り入れる。 算数の時間だけでなく、日常生活においても意識できるように話題にしていく。 問題解決型の学習を行い、解決に必要な既習事項を示し、自力解決を促す。 ペアやグループで話し合う機会をもち、自分の考えを伝えるだけでなく、互いの考えの良さや違いを見つけ、よりよい考えにまとめ上げていく力を育てていく。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ミニトマトやトウモロコシを大切に育てようとしており、自然との関わりに関心が高い。 1年生のお世話をし、感謝されたことに喜びと、自分たちにもできたという達成感をもてた。 町探検では、自分の住んでいる町の様子や公共施設について知ることができ、関心をもつことができた。2学期の町探検への期待がもてている。 活動や体験を通して気付いたことを、観察カードに書くことに慣れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然との関わりに関しては、資料や図書を活用したり、加藤農園の方のお話を聞いたりしながら、引き続き興味・関心をもてるようにしていく。 2、3学期も少なくとも1回は、1年生と交流する学習を計画する。 昨年度は、班でコースごとに探検し、気付いたことをまとめ発表していたが、今年の2学期の町探検は、お店を班ごとに取材し、取材したことを発表するなど、人との関わりをもつ課題を設定する。 観察カードなど、書いたり記録したりすることに関しては、国語の学習との連携を図り、観察のポイント、文章の書き表し方、絵での表現などを引き続き指導していく。また、自分の思いや考えを友達同士で伝え合い、友達の意見から新たな気付きや疑問がもてるように支援をしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの学習に対して意欲的であり、技能も身につけてきている。しかし中にはタンギングや運指の定着が十分でない児童もいる。 歌唱では多くの児童が伸び伸びと歌っている。 音符や休符などの記号についての学習に意欲的に取り組んでいる。 楽曲の特徴や演奏の楽しさに気付き、味わって聴いている。曲の場面も想起させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習曲集を活用したり、個別指導の時間をできるだけ設けたりするなどして、タンギングや運指の技能を確実に定着させる。友達同士で合わせたり教えあったりする姿勢も育てていく。 わらべ歌・季節の歌・行事の歌などを通して、情感を育てていくと共に、楽曲の気分や歌詞の内容などを感じ取り、それらに合った歌い方を工夫する活動を取り入れて、更に歌唱力を伸ばしていく。 楽しみながら記号についての知識を身に付けていけるよう、引き続き教材や活動を工夫していく。特にリズム譜の読み取りについては確実に定着させる。 曲の場면을想像しながら楽しく鑑賞することも取り入れる。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 図工の活動に関心が高い。 造形活動を取り入れ、体全体を使って感じたり、いろいろな素材に触れたりする機会を設定する必要がある。 基本的な用具を正しく扱えていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲が高まるように、参考作品を見せ、実演して見せる。 児童が興味をもつ題材を選んだり、伸び伸びと活動できる場を設定したりする。 鑑賞の場を設けて、互いの作品の良いところに気付かせたり、自分の作品を工夫しようとしたりする意欲を育てるようにする。 用具の使い方は、掛け図の提示や、実演を通して指導する。 基本的な用具も正しく扱うことができるように日頃から指導する。

体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に意欲的に取り組む児童が多く、体育に関心が高い。 登り棒や雲梯、鉄棒などを使った運動への意欲はあるが、体の使い方に個人差が見られる。 個人の運動は積極的に取り入れていたが、ペアやグループでの活動が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことに意欲的な児童が多いので、様々な運動を紹介し運動経験を増やす。 安全面に関しては、その都度、適切に指導していく。 パワーアップ朝会や、体力貯筋で取り組んだ運動を体育の時間にも取り入れて、継続して力を付けられるようにする。 ペアやグループ、チームでの活動を増やし、作戦を立てたり、工夫を考えたりして、互いに教え合い学び合いができる場面を多く設定する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちを考えることや自己を振り返ることに個人差がある。 自分の意見を発表したり、書いたりすることが苦手な児童が複数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大した挿絵の掲示や動作化などを多く取り入れる。 ペアやグループで考えを伝え合う活動を通して、友達の意見を参考にさせる。 自分の意見をうまく表現できない児童には、教師が意見をまとめたり、書くときに助言したりする。 ワークシートや振り返りシートを積極的に用いる。 児童の心に響く教材を精選する。

令和元年度 第3学年 授業改善推進プラン 小平市立花小金井小学校

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて） 改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えをよく聞いて、付け足しをしたり、質問したりしている児童が多い。一方で、自分の意見に自信をもって発表できず、聞いているだけになってしまう児童もいる。 説明文の読み取りでは、文の構成を捉えたり中心となる文を見つけたりすることができるが、文章の順序を考えて読み取ることが苦手な児童がいる。 書くことには意欲的に取り組んでいるが、書く事柄の順序を整理したり、伝えたいことを短くまとめて書いたりすることが苦手な児童が多い。 新出漢字の練習には意欲的に取り組んでいるが、書き順を正しく書いたり、日常的に使ったりすることができない児童がいる。また、文字を整えて綺麗に書く意識が低い児童がいる。 読書が好きな児童が多く、読み聞かせを静かに聞くことができるが、読む量や内容に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考える時間を十分に確保する。ペア→班→クラス全体というように、話し合う人数を徐々に増やすことで、自信をもって話し合いができるようにする。教室に掲示してあるハンドサインを活用し、一人一人が友達の考えに対して反応できるように指導する。 「はじめに」「次に」「おわりに」など、順序を表す言葉に着目させて読むように指導する。 日記指導において文章の書き方の例を提示し、「はじめ」「中」「おわり」の順序に着目させ、段落を活用した読みやすい文が書けるよう指導する。書くことをねらいとする単元では、伝えたいポイントを整理してから文章を書き、伝えたいことを短くまとめられるよう指導する。 新出漢字の練習を行う際に空書きやなぞり書きを徹底して行ったり、小テストやまとめテストを振り返らせたりし、繰り返し学習することで正しい書き方の定着を図る。日記や作文などを書く際に、既習の漢字を使うよう繰り返し指導する。新出漢字の学習の時はもちろん、普段文字を書く際にも「はね」や「はらい」などに気を付けながら、ゆっくりと丁寧に書くよう指導する。 本をすぐに手に取って読めるような読書環境を作る。読書の機会を多く設け、児童が十分に本を読める時間を確保する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の学習により一層興味をもって取り組ませる必要がある。 写真や地図などの資料の読み取りに興味を示す児童が多くいるが、情報を読み取る力に個人差がある。 読み取ったこと、考えたことを表現する力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に見たり、聞いたり、調べたりするなどの体験的な活動を全ての単元で取り入れ、社会的事象への興味関心を常にもてるようにする。 複数の資料を比べることや変化を読み取ることなど、視点を絞って資料を読み取る学習を全ての単元で複数回行い、読み取る力を培う。 全ての単元で学習したことを新聞やクイズなどにまとめる学習を行う。良いまとめ方を例示したり、まとめたあとに友達同士交流をさせたりする活動を毎回取り入れ、表現の仕方への理解を深めていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 時刻と時間の理解が不十分な児童がいる。 文章問題になると、何を聞かれ、何を答えたらいいのか分からなくなる児童がいる。 たし算とひき算の筆算の技能面で、個人差がある。 既習したことを基に、活用して問題を解くことができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で時計を読んだり、時間を計ったりさせ、時刻や時間の感覚を養う。 練習問題に繰り返し取り組みせ、様々な問題場面に慣れるようにする。また、問題を絵や図で表す活動を取り入れ、何が分かっているのかを問われていて何かを明確に読み取れるようにする。 繰り返しがりや繰り返しがりに注意させ、繰り返し問題に取り組むことで正確に解けるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 植物やかげの動きなど、天候に左右され、十分に観察できなかった。ま 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して変化の様子を記録しておき、滞りなく観察などの活動をできるようにする。また、観察

	<ul style="list-style-type: none"> た、植物は発育状況に応じて観察時期にずれが生じた。 生活科の学習を素地として学習に取り組む児童が多いが、科学的な見方や考え方を今後身に付けさせていきたい。 	<p>の時間を十分に確保することで、観察に関する技能を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決の手順を明確にし、立てた予想や仮説と結果を比べたり、結果から結論を導き出したりする活動を行っていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 3年生から新たに始まったリコーダーの学習に意欲的に取り組んでいるが、技能の習熟に個人差が見られる。 歌唱については、無理のない発声で歌うことができる。曲に合った表現を工夫するよう声かけをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダー練習曲集を活用し、繰り返し演奏することで、タンギングや指使いを確実に身に付けさせていく。同時に音符や休符の読み方も関連付けて学習していくようにする。 鑑賞の活動を充実させて、表現の工夫の仕方でも伝わり方が変わること気付かせ、自分たちの表現に生かせるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動している。絵の具を使う機会が増えて、絵の具を混ぜし新しい色をつくり出すことを喜ぶ児童が多い。しかし、パレットの使い方などを繰り返し指導する必要がある。 造形遊びを十分にできなかった。身近な材料や場所などを基に造形的な活動を通じて表現活動を充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで習得した材料・用具（とくに絵の具・カッターナイフ）を適切に扱い、新たに扱う用具（ダンボールカッター・かなづち・くぎ・のこぎり）を安全に扱えるように指導する。 鑑賞の時間を製作途中に多く入れ、良いところを共有して作品をつくれるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全員が、運動に楽しく取り組んでいる。しかし、指示されたことは一生懸命行すが、自主的に運動に取り組もうとする意欲面に課題がある児童も多数いる。 ルールを守って集団行動をすることができる児童が多数いる。 浮く・泳ぐ運動、器械運動、ゲームでは経験の差があり、技能面での差は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす心地よさを感じられるような指導計画を立てる。パワーアップ朝会や体力貯筋で行った運動を、その時期の準備運動に取り入れる。休み時間に教師も一緒に外遊びを行い、運動の日常化を目指す。 安全に気を付けて全力で取り組む大切さや、進んで友達を励ましたり、助言したり、応援したり、運動の行い方を工夫したりする態度について、毎時間価値付けと指導をする。 全ての単元で学習カードを活用し、自分のめあてと活動、技能面を振り返らせ、自分の達成度を理解できるようにして技能の向上を目指す。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験と関連づけて考えられる児童とそうでない児童とがあり、個人差がある。 積極的に発言する児童が多い。いろいろな友達の考えを聞きたいという意欲はあるが、友達の考えと自分の考えを照らし合わせて、考えを深めることはあまりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科や体験活動と関連させて指導を行い、児童が自分の経験を基に自己を振り返ることができるように発問を工夫する。 友達の考えを聞いて、自分の考えと似ているか、違うかを考えさせる習慣を付ける。また、1単位時間の授業の中で多様な話し合いや簡単な体験活動を取り入れ、多様な考えを引き出し合える場を設定していく。

令和元年度 第4学年 授業改善推進プラン 小平市立花小金井小学校

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちを考えて、工夫して音読する児童が多い。一方で、つかえながら読んだり、読み飛ばしをしたりする児童も数人いる。 理由と一緒に自分の考えを伝えようとする児童が増えてきた。また、友達の考えをよく聞いて、付け足しをしたり、質問したりしている。しかし、自分の考えがもてずに、聞いているだけになってしまう児童もいる。 書くことに対して、意欲的な児童が多い。一方で書きたいことが見付からなかったり上手くまとまらなかったりする児童もいるので、個別の支援が必要である。 物語の叙述をもとに、場面の様子や登場人物の気持ちなどを読み取れる児童が増えてきた。 説明文の段落構成を捉え、要点をまとめたり筆者の考えに対して自分の考えをもったりする活動を繰り返し行うことで、説明文の読み方への理解を深めた児童が徐々に増えてきた。 新出漢字の学習に意欲的に取り組んでいるが、定着していない児童もい 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で音読の時間を確保したり、計画的に宿題に出したり、音読の時間を増やす。また、指でなぞって読む方法を教えたり、漢字にふりがなをふらせたりするなど、正確に読めるように個別に手立てを講じて、支援をする。 教室に掲示しているハンドサインを意識させ、一人一人が友達の考えに対して反応できるようにする。意見を言う児童は、理由や事例などを挙げながら話せるように話型を示す。 書きたいことが見付からない児童には、例を提示する。書くことが上手くまとまらない児童には、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作り、構成メモを作ってから文章を書かせる。 物語文の学習では、場面の様子や登場人物の気持ちをどの叙述をもとにして読み取ったのかを確認する。 説明文の学習では、段落の構成や表現技法にサイドラインを引いたり、色分けをしたりすることで、視覚的に理解できるようにする。また、要約したり、要旨・意図を捉えたりする学習では、大事な部分の捉え方の手順を示す。 誤字・脱字がないか、既習の漢字を使っているか、見直しをさせる。また、教師が確認をして書き直しを

	<p>る。繰り返し練習したり、小テストなどで定着を児童自身が確認したりすることが必要である。また、文や文章を書く時に、誤字・脱字があったり、既習の漢字を使えなかったりする児童がいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書写では一画ごとに注意深く書くことができる。漢字や仮名の大きさや文字の組み立てについては、繰り返し指導が必要である。 	<p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書写では、筆使いを言語化しながら空書きをさせることで、とめ、はね、はらいを意識させ、毛筆に生かせるよう支援する。手本に文字の大きさや組み立てについてポイントを書き込ませ、それを見て書くようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 消防や警察、清掃工場などの職業の学習をする単元では興味をもって意欲的に活動している。しかし、自分たちの暮らしをよりよくするために働いている人がいること、地域の住民の暮らしを支える仕組みがあることをもっと理解をさせる必要がある。 学習に主体的に取り組み、学びを深めさせる必要がある。 <p>・グラフから内容を読み取ることや、その変化の要因を探求する能力に差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの職業の方々の努力や工夫を調べた上で、社会科見学や体験的活動など実際の様子を知る機会を設け、より深い関心をもって学習できるように指導していく。 課題別的小グループで話し合いをしながら学習できるようにする。新聞、リーフレット、標語、ポスターなど様々なまとめ方を指導し、交流させ合う。 複数のグラフを関連付け、内容を深く理解させるとともに、算数「折れ線グラフと表」とも関連付けて学習していく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算の技能に、個人差がある。かけ算九九が定着できていない児童が数人いる。 分度器やコンパスを正確に扱えない児童がおり、個人差が大きい。 文章題の意味を正確に捉えられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や宿題などで繰り返し計算の練習をする。また個別指導を行い、どこでつまづいているのかを把握した上で、児童に合った指導をする。 様々な図形を描かせ、慣れさせる。また、作図するときに、ずれてしまう児童については、個別指導を行い、正確な描き方を指導する。 文章題は、場面を想像したり、分かっていること・求めたいことに線を引いたりなどして、意味を正確に捉えられるようにする。また、最後までしっかり読み、何を聞かれているのか理解するように指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ヘチマやゴーヤ作り、植物や生き物の観察を意欲的に行っているが、扱う生物が限定され、幅広い経験ができていない。 植物の観察において、成長を読み取るポイントを理解していない児童もいる。 天候に左右される単元が1学期に集中し、単元内の指導内容順を入れかえなければならぬことが生じた。（1日の天気と気温・あたかかくなって・暑い季節） 基礎的な実験の技能は有しているが、実験の結果から何が結論付けられるかを考える力や表現力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物については学年園や中庭がよい観察場所となっている。今後も活用する。地域であまり見かけない生き物については図鑑やDVD教材を活用する。 前回との違いを基に葉の枚数や茎の太さ、長さなどのポイントを絞って観察することにより、成長が数値として記録できるように指導する。 単元を入れ替え、自然観察の単元と平行して室内で学習できる単元を行う。 <p>・授業の展開を予想→実験→結果→考察という流れで定着させたり、話形を提示したりすることにより、何をどのように表現するかを理解させる。</p>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱の学習では、伸び伸びと歌っているが、ハーモニーの意識が弱い。 リコーダーの学習にも意欲的に取り組み、学年相応に技能が高まっている。それに伴い読譜力も付いてきている。しかし中には進んで取り組めない児童も数名いる。 合わせて演奏することや、伴奏や指揮などの役割にも興味をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 部分2部合唱を取り入れて、ハーモニーの意識を育てていく。 確実に基本の定着を図るために、個別に丁寧に指導する時間を設けたり、友達同士で聴き合ったり教え合ったりする。 <p>・表現の楽しさや自分たちで音楽を創り上げていく面白さを味わうことができるように、教材や学習形態を工夫して、高学年の学習へとつなげていく。</p>
図工	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組む児童が多い。とくに造形活動に関心が高い。 カッターに加えてダンボールカッターを扱える。 くぎとかなづちを扱った。これからは木片と組み合わせて、作品づくりに生かせるようにしていけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 木材に触れる機会を増やす。 分かりやすい資料を提示する。刃物は慎重に扱うよう引き続き指導していく。安全面には十分に配慮する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 投力が弱い児童がいる。 マット運動、Tボールなどのゲーム型運動では、経験の有無によって児童の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 投げる、取るなどの基本的な動きを毎時間行うようにする。また運動量を確保するために、全ての児童が動くようにルールを工夫する。マット運動では個々の技能に応じた場を設定し、スモールステップで指導していくことにより達成感を持たせる。

道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の一時間の流れが身に付いている。 ・積極的に発言する児童が多い。いろいろな友達の考えを聞きたいという意欲はあるが、友達の考えと自分の考えを照らし合わせて、考えを深めることはあまりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の振り返りの時間をしっかりと確保することで、自分の今後の生活に生かしていけるようにする。そのために、題材の読み取りでは、発問を精選する。 ・友達の考えを聞いて、自分の考えと似ているか、違うかを考えさせる習慣を付ける。また、自分の考えを一人一人が表現できるように自分の立場を明確にしたり、気持ちのメーターを使うなど教具を工夫したりする。
----	--	---

令和元年度 第5学年 授業改善推進プラン 小平市立花小金井小学校

	課題（児童の実態、学習状況、学力調査の結果、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に意欲的であるが、種類に偏りがある。様々なジャンルの本に触れさせる必要がある。 ・前学年までの漢字の理解が不十分である。 ・主語・述語・修飾語等の文法的な内容や、熟語の成り立ちなどの言語に関する知識・理解の定着が不十分である。 ・自分の考えについて根拠を明確にして、文章にしたり、話して伝えたりする力を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館協力員と連携して味見読書やブックトーク、必読図書の推進により、様々なジャンルの図書に触れる機会を作る。 ・漢字の小テスト、宿題・朝学習での漢字ドリルの取り組みを継続的に行って漢字の力を付ける。 ・授業の中で、主語、述語などを確認する。言語事項に関する内容について、プリントを用いたり、日常的に辞書を引く機会を設定したりして、継続的に指導する。 ・登場人物の気持ちや筆者の伝えたいことなど、読み取ったことを書いたり、友達に伝えて交流したりする活動を多く設定する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・小平市や都庁の位置の定着が不十分である。 ・資料を見ることに興味をもって取り組み、資料を読み取ったり複数の資料を比較して考えたりすることができる。しかし、情報量が多くなると、必要な情報を正確に読み取ったり判断したりできなくなる。 ・資料活用の力はある程度身に付いているが、チャート図を読む力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で都道府県名・都市名や山地・川などの名前を扱うときには、こまめに地図帳を開き位置を確認するようにし、名称や位置に習熟できるようにする。 ・資料を比較して読み取る活動を行うとともに、読み取ったことから課題を見つけたり、読み取ったことをもとに課題を解決したりする学習を積み重ねる。その中で、扱う情報を徐々に増やし、複数の資料や分量のある情報を処理できる力を伸ばしていく。 ・意図的にチャート図を読む学習活動を用意する。また、学習のまとめにチャート図を書かせる活動も取り入れる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートは板書をそのまま写す児童が多い。 ・図形については様々な解法を見出すことができている。また、友達の解法を聞いて、進んで取り入れようとするができる。しかし、どの単元でも、自力解決する力が必要であり、その力を身に付けさせる必要がある。 ・図形や数量の知識・理解および、技能においての習熟が必要である（特に、小数の計算）。 ・文章題の意味を正確に捉えられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を整理したり、マス目のあるノートや定規の使用を習慣化したりして、見やすいノートづくりをすすめる。ノートに自分の考えを書けるよう指導する。よいノートを提示する。 ・児童の考えの良さを生かしてさまざまな解法を発表し合い、いろいろな考え方を養う。自力解決の場面では、解決に導くための材料（図、絵、数直線など）を提示し、解決に向けて見通しをもたせる。 ・単元に合わせて東京ベーシックドリルを活用し、前学年の振り返り・復習をする。特に、計算（かけ算・わり算、小数の計算）は定期的に練習を行い、全員の基礎・基本の理解を確かなものとする。理解不足が目立つ児童は個別指導で解消を図る。 ・文章題は、分かっていること・求めたいことに線を引くなどして、意味を正確に捉えられるようにする。東京ベーシックドリルを活用して個別指導を行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の記録を丁寧に分かりやすく整理して書くことができるようになった児童が増えてきたが、苦手な児童も多い。 ・自然事象についての知識理解の定着が不十分である。 ・複数の資料の中から情報を整理したり、正しいもの選んだりする力が不十分である。 ・安全に実験できるように理科室で学習する時の約束や実験器具の使い方を学ばせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の目的、予想、方法、結果、考察に分けて記録できるように指導する。 ・既習事項と関連付けて授業を進める。関連する単元のときに復習をする。生き物、植物、天気など自然に触れる活動を多く取り入れる。 ・資料を比較して読み取る経験を積極的に取り入れる。また、資料から分かることと自分の知識を結びつけて考える活動を授業に取り入れ、科学的な思考を育てていく。 ・理科室にある実験器具の名称や安全な使い方を事前に丁寧に確認する。 ・実験の際の約束を全校で統一し、理科室に掲示する。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱においては伸び伸びと無理のない声を響かせて歌っている。ハーモニーを味わったり強弱を変化させたりすることについても、興味を持って取り組んでいる。しかし、相手に伝わるように表現する楽しさや楽曲を作り上げる楽しさを十分に味わえていない。 リコーダーをはじめとする器楽の学習についても、全体として意欲的に取り組んでいるが、楽曲に合った音色の工夫については、まだ意識が低い児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の連合音楽会や3学期の卒業式に向けて相手に伝わるように表現の仕方を工夫しながら楽曲を創り上げていく楽しさを味わえるように、教材や学習形態を工夫していく。 鑑賞の活動を充実させて、表現方法の多様性に気付き、自分たちの表現に生かせるようにする。また友達同士で聴き合ったり教え合ったりして、音色に対する意識を育てていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動している。班で協力して製作することができる。しかし、見通しをもって取り組めず、時間内に活動を終わられないことがある。 鑑賞では、他クラスの作品にも興味をもち、良いところを見つけることができる児童が多い。しかし、良さを見つけ、良さを自分の作品に取り入れることが苦手な児童もいる。 くぎ・かなづち・のこぎりを安全に扱えるように継続して指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 数が少ない道具については、班で譲り合って使うように声かけをする。 授業の流れを分かりやすく提示して見通しをもって製作させる。 鑑賞の時間を充実させ、お互いの作品の良さに気付かせる。また、親しみのある美術作品、日本の伝統作品の鑑賞を増やし、その造形的美しさを自分の作品に取り入れて製作できるようにさせる。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習を楽しみにしている児童が多い。衛生面・安全面には気を付けて活動できている。しかし、普段の生活に活かそうとする児童が少ない。 裁縫の技能は個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養を考えた食事のとり方や食品の主な働きを学習し、毎日食べている食事に関心をもたせる。 初めてミシンを使う学習では、学習ボランティアを募り、安全面に配慮し、個に応じた指導をする。ランチョンマットの製作を通して作る楽しさや生活に役立つことへの喜びを実感できるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守り、運動を楽しむことができる。チームワークよく、友達と作戦を工夫することができる。しかし、友達と意見が合わなかった際の解決方法を身につけさせる必要がある。 日常の遊びの中であまり触れていない動き（マット運動、柔軟性、投運動など）に関して、十分に力が身に付いていない児童が多い。また、技能面に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しめるようなルールを考えたり、チームで協力して作戦を考えたりする学習を多く取り入れていく。また、作戦タイムや、個々に考える時間を設け、うまくいかなかったことを責めるのではなく、問題を解決するにはどうしたらよいかを考えさせるようにする。 用具や場の工夫、学習カードの活用をして、自ら課題を設定し、粘り強く取り組めるように学習環境を整える。体育学習だけでなく、毎月のパワーアップ朝会や体力貯筋で、必要な動きを取り入れて、楽しみながら運動に取り組めるように工夫する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に素直で、善悪の判断が適切にできる児童が多い。しかし、自尊感情が弱く、思い込みで行動してしまう児童もいる。 友達の気持ちに思いが至らず、本意に傷つけてしまったり、自分の思いを優先させてしまったりする場面が時々見られる。また、コミュニケーション不足によって起こる誤解がトラブルの元になることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業のみならず、他の教科や学校生活全般の中で、素直さを大切にし、自分や友達の良さに気付けるような活動を設定し、自尊感情を育てる。また、言葉が足りなかったり思い込みによる行動といった誤解の原因に児童自身が気付けるような話し合い方を工夫する。 ロールプレイングや視聴覚教材によるモデリングを利用し、具体的にどのように行動することが適切なのか、考えさせる。相手の気持ちを考えたり、自分の言動を振り返ったりすることができるような題材・資料を選ぶ。

令和元年度 第6学年 授業改善推進プラン 小平市立花小金井小学校

	課題（児童の実態、学習状況、学力調査の結果、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手立て）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 大まかな内容を読み取ることは多くの児童ができる。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに苦手意識をもつ児童が多い。 書き方の手順を示すことで、根拠を明確にした文章を書くことができる。また、詩や俳句作りを楽しみ、豊かに表現することができる。しかし、自分で構成を考えたり、自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、推敲したりすることが苦手である。 新出漢字を覚えることはできるが、定着している児童が少ない。 自分の意見を述べることはできるが、相手の考えを聞き、内容を捉えてそれに対する自分の意見を述べることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落ごと、場面ごとに読み取った内容に対する自分の考えを書く時間を設ける。又、友達の考えを共有できるように読み合いの時間も確保する。 日常的に文章を書く機会を確保するために週に一回以上作文の宿題を出す。書く学習のときはうまく書けている児童の作品を手本に、書き方を確認する時間をとる。また、書き上げたものを自分で読み返す習慣を付けさせるために、声をかける。 学習した漢字を書く活動で使えるように辞書を用意する。 4人程度のグループでのディスカッションを学習に取り入れる。

社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取ることに興味をもって取り組むことが出来る。1時間の中で複数の資料を比較・関連付けをしたり、それをもとに問題を解決したりする力も身に付いてきている。しかし、調べて分かったことを整理したり、学んだことから自分が考えたことを文章にしたりして自分の力で学習のまとめをすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめでは、目的意識・相手意識をもたせて作業させる。まとめ方のイメージがわくようにまとめの様々な方法を毎回例示する。 思考を促す資料を毎時提示したことが意欲の向上につながっているため今後も継続する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算の技能については個人差が大きい。小数のかけ算、わり算、分数の計算の約分に課題がある。 文章問題で問われていることを正確に捉えられないことがある。 様々な解き方に興味をもち、考えを広げようとするのはできるが、考えを比較し、まとめていくことも身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数クラスごとに、躓きやすい箇所声をかけて、どの段階の学習を身に付ければよいかを、児童に意識させる。 文章問題は、分かっていること・問われていることに線を引いて題意を整理したり、抽象的なものを図や数直線で具体化したりして、意味を正確に捉えられるようにする。 友達から聞いて広がった考えを、自分で説明させて、友達の考えの良さや自分の考えとの比較をさせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察に意欲的であるが、理解の不十分な児童が目立つ。 実験の記録を丁寧に分かりやすく整理して書くことができる児童が多く、結果まで追求することはできる。結果から自分で考察することは苦手である。 知識理解の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての単元で観察、実験を取り入れ、体験的に理解を深められるようにする。 子どもたちに観察、実験の方法も考えさせることで、何を知ることができるのかを考えさせる。結果から自分が知りたかったことや、共通していることに注目させる。 学習のまとめとして、学んだことを誰かに説明するようにミニレポートを作成して、理解の様子を確認する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対して意欲的に取り組んでいる。読譜力や演奏技能は全体として高まっているが、個別に支援が必要な児童が数名いる。 鑑賞の活動に意欲的に取り組んでおり、表現の多様性に気付くようになってきている。しかし、自分たちの演奏に生かすまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽ワークを学習のまとめなどで活用し、音楽の要素・記号・知識などの基本を確実に定着させていく。また、できるだけ個別に対応すると共に、友達同士で教え合い、全体を高めていこうとする姿勢を育てていく。 引き続き鑑賞の活動を充実させ、多様な表現に触れさせ、自分たちも多様な表現に挑戦しようとする姿勢を育てていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 製作進度の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品が早く終わった児童には課題を与え、早く終わったら別の課題を行うことを習慣化できるように指導を継続していく。 製作途中で鑑賞する時間を多く取り入れる。友達の良いところに気付かせ、自分の作品に、より意欲的に取り組めるよう声かけし、製作の進度を促す。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住に関する活動に対して意欲的に取り組む児童が多い。さらに生活をよりよくしようとする態度に結び付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践的・体験的な活動を通して、気付いたことや考えたことなどを話し合ったり、家庭科新聞にまとめたりして、課題意識や今後に向けた意欲をもてるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> グループで教え合い、技能を高め、それを認め合える姿がみられるが、アドバイスの仕方には個人差がある。 チームで協力してゲームを楽しむことが出来る。作戦を自分たちで工夫することは難しい。また、勝敗にこだわりすぎる児童が何人かいる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習ではチーム分けに配慮し、学び合いが深まりやすいグループをつくるようにする。 始めのゲームでは作戦を選ぶことから始め、終わりのゲームではそれらの作戦を組み合わせる自分たちのチームにあった作戦を立てることができるよう段階を踏んだ指導をする。 声をかけ合ったり、全員が前向きに参加しているチームを称賛し、集団として望ましい姿を価値付ける。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に素直で、道徳的価値を理解している児童が多いが、日常化につなげることが課題である。 友達の気持ちに思いが至らず、傷つけてしまったり、自分の思いを優先させてしまったりする場面が時々見られる。 自分と友だちの意見の違いを肯定的に受け取り、多面的に物事を考えられるように考えさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ道徳的価値を日常の生活と関連させて考える時間を設ける。 多様な見方、考え方ができる教材を取り扱い、一方的な見方、考え方に陥らないよう指導する。 お互いの考えを交流する時間を確保し、多様な考えに触れられるようにする。